りつめい

題字・末川博名誉総長

Ritsumeikan University Alumni Association
立命館大学校友会報

Rits 立命館大学

No. 223
JANUARY 2006

特集1
総長・校友会長が語る 立命館新飛躍の計

特集2
産学連携で拓く大学の未来展望
産学連携評価全国1位
立命館大学リエゾンオフィスの到達点

Brilliance 輝くひと 56
美しい日本の環境が、私に道を教えてくれた
立命館大学大学院理工学研究科 博士前期課程2回生
顧 嵐（コー ラン）さん（04理工）

立命館大学 校友会報
りつめい

特集1 鼎談
総長・校友会長が語る
立命館新飛躍の計 3
長田豊臣総長・山中諄校友会長
竹本慎也APU校友会長

輝くひと …… 1
顧　嵐さん

RITSUMEI INTERVIEW …… 8
President of Dreamtec Consulting LLC
安久和伸さん

恩師の窓
芝田徳造 名誉教授（産業社会学部） …… 11
二場邦彦 名誉教授（経営学部）

キーワードから見る現代 …… 12
ご当地検定
戸祭達郎 経済学部教授

All-Rits立命館校友大会2005報告 …… 14
第3回りつめい読者の会報告 …… 15

特集2 18
産学連携で拓く大学の未来展望
産学連携評価全国1位
立命館大学リエゾンオフィスの到達点
野口義文BKCリエゾンオフィス課長

校友会ネットワーク …… 16
Rits One ときの人 …… 21
鈴木美佳子さん
立命館学園政策ニュース …… 22
キャンパストピックス …… 24
学生のスポーツ＆イベント …… 26
INFORMATION …… 28

Ritsumeikan University Alumni Association, JANUARY 2006 No.223

CONTENTS

美しい日本の環境が、私に道を教えてくれた

表紙の人

立命館大学
大学院理工学研究科
博士前期課程2回生
顧 嵐（コーラン）さん
（'04理工）

大学院理工学研究科の水環境工学研究室に所属する顧さん。学部生の頃から中島淳教授のもとで、バクテリアなどの微生物を利用した汚水浄化の研究に励んできた。下水処理の過程で、リンや窒素といった汚染原因物質の除去率を高めるにはどうしたらよいのか。いろいろな条件下で実験を繰り返し、その結果に心躍らせる毎日だ。

中国・蘇州の出身。本国でマネジメントの専門学校を出たものの、思うような就職ができなかった。日本人の知人に、日本語を学ぶだけでもきっと役立つと勧められ、家族の後押しもあって1999年に来日した。「関西空港に降り立って外へ出た瞬間、空気も水もきれいなことに驚きました。ちょうど桜が満開で、山には色があふれ、なんと美しい国だろうと」。

その印象を日本語学校の講師に話したところ、「でも、二十数年前までは公害がひどかったんですよ」との思いがけない言葉が。「いま中国では、環境問題が深刻です。日本が二十年できれいな環境を取り戻すことができたのならば、その方法をぜひ学びたいと思いました」。

日本語を猛勉強し、翌2000年、理工学部環境システム工学科に入学した。来る3月には博士前期課程を修了予定である。その後も日本に残り、環境分析の会社で水質管理の仕事をしながら、夢をあたためるそうだ。「中国にも排水の水質基準はありますが、それを達成する方法はまだあまり知られていません。いつか中国に帰って、技術的なアドバイスをする会社を興し、環境保全の役に立てればと思います」。

日本人と結婚し、一児の母としても奮闘中。日本で得た喜びの大きさは計り知れない。「日本で、立命館で学んで本当によかった。母校との縁、周囲のたくさんの皆さんとの縁を、ずっと大切にします」。

（写真・小幡 豊　文・寺田直子）

Voice of President & Alumni Chairman

総長・校友会長が語る
立命館 新飛躍の計

急速な成長を遂げている立命館。
2006年は、去る2000年の創立100周年に続く大きな飛躍の年であり、
学園の将来を考える上での岐路でもある。
4月には、立命館小学校が京都市北区に、
立命館守山高等学校が滋賀県守山市にそれぞれ開校し、
9月には、京都二条駅前に朱雀キャンパスが竣工予定である。

時代の変化を敏感にとらえつつ、常に追い求めてきた
私学立命館の理想、ポリシーは何か。
発展する学園を支えるにふさわしい校友会の姿とは。
総長、立命館2大学の校友会長に、お話しいただいた。

長田豊臣
立命館総長

山中　諄
立命館大学校友会会長

竹本慎也
立命館アジア太平洋大学
校友会会長

特集1 総長・校友会長が語る

立命館新飛躍の計

時代の要請に応えつつ私学立命館に徹する

山中◆ 来る四月には、立命館小学校ならびに立命館守山高等学校が開校し、秋には朱雀キャンパスの開設をみるということで、二〇〇六年は立命館にとって学園創立一〇〇周年以来の大きな飛躍の年、節目の年になります。我々校友は、昨今の母校の動向に大いに関心をもっております。全国的に知名度が上がり、各方面から評価をいただけるようになったことを喜ぶ声が大半ですが、一方で、急激な拡張に対するある種の懸念や、母校のイメージが大きく変容したことによる一抹の淋しさをお感じの方もあるいはいらっしゃるかと思います。そこで今日は、立命館学園が新展開において意図するところや理想の将来像について、あらためて総長にお伺いするとともに、APU校友会の竹本会長を交えて、学園と校友会との連携のあり方を話し合いたいと思います。

まずは総長、最近の学園の動きについて、ご説明をいただけませんか。

長田◆ そうですね、現在の状況をご理解いただくために、大学の歴史の概観から始めたいと思います。

ご存知の通り明治期に、東大、京大といった旧帝国大学が設立され、慶應義塾、早稲田、わが立命館などの私学もほぼ時を同じくして誕生しました。しかし、高等教育の主流を担っていたのは帝大、国立大学であり、私学はいわば傍系でありました。当時は欧米に追いつくこと、富国強兵が喫緊の国家的課題でしたから、均質の学生を集めてマニュアル化された教育を施せる国立大学のほうが都合がよかったわけです。

立命館は私学ながら、設立当時から京都帝国大学と極めて近い関係にありました。設立者中川小十郎先生は文部官僚で、京都帝大の初代事務局長であり、先生方もみな京大から教えに来ておられた。後の京大事件（瀧川事件）の際には、京大を退いた教授陣の招聘もしました。ですから、草創期から第二次大戦直後にかけての立命館の理想は、国立大学の姿にできるだけ近くあることだったと言えます。私学であっても良い先生から学ぶことができ、学費は安い。全国から、いろいろな事情で国立大学を選ばなかった学生が大勢やってきました。

社会では厳然として国立大学優位の状態が続き、立命館大学卒業の学歴が、特段有利に働くことはあまりありませんでした。先輩方は、皆さん自力で頑張ってこられた。一方で学生数は激増し、教学環境が悪化しました。このような状況に対する大きな揺り返しが、大学紛争であったと思います。立命館もかなり荒れましたが、力を結集して立ち直りました。この時です、改革に乗り出したのは。「立命館の原点に立ち返ろう。国立大学の真似はやめて、私立大学に徹しよう」という決意をもったわけです。

竹本◆ 立命館アイデンティティの確立を目指したということですね。

長田◆ そして高度成長期を経て、社会は創造的な人材を必要とするようになりました。私学の出番です。私は、私学の良さは、多様な学生の存在にあると考えます。多様性こそが創造性の原点ですからね。しかし、単にいろいろな学生がいるだけでは混乱だけです。そこで私たちは、学生をきちんと教育するための数々のシステムを構築し、時代の要請に応じて新しい学部・学科を作り上げてきたわけです。

九四年に、理工学部をびわこ・くさつキャンパス（BKC）に移し、拡充をはかった結果、今では幅広い分野にわたり、規模も大きく非常に水準の高い学部に成長しました。続いて経済・経営学部が移転して、BKCは文理融合の利点を活かした先進的なキャンパスになりました。いまの立命館大学に元気があるのは、この理工学部と、伝統ある人文・社会系学部の両方が、鶴翼の陣のごとくにうまく機能しているからです。わが大学の研究のレベルが一定以上の水準にあるからこそ、我々が「社会に開かれた大学」であろうとしている努力が意味を持つのです。

立命館総長
長田 豊臣
NAGATA Toyoomi

一九六二年立命館大学文学部卒業。大学院文学研究科を経て、七〇年、教員に。一九九九年一月、立命館総長に就任。専門はアメリカ史。文学博士。

学園内各校の連携で高める教育効果―学校新設の理由

山中◆ 大学の性格そのもの、あるいは社会との係わり方といったものは、時代と共に確実に変化してきましたね。私もそれは十分に認めるところです。時代の要請に応じた形で人材を養成することは、現代の大学の重要な役割の一つになっています。

長田◆ 加えて、私学であるからには、生徒をなるべく早い段階から預かり、本学が理想とする教育をできるだけ長い期間施して、教育効果を高めたいと考えるのは当然です。また、できれば大学の在学生のうち二割は、附属高校から進学させたい。立命館・立命館宇治・立命館慶祥の三つの附属中学・高校は、それぞれに特色があり、どれも非常に面白い、元気な学校に育っています。

竹本◆そして、立命館守山高校ですね。

長田◆立命館の一大拠点に成長したBKCとの高大一貫教育を強力に進めるための附属高校が必要だと考えていたところに、ちょうど滋賀県守山市からお話しをいただきましたのでね。文系・理系の枠にとらわれず、生徒すべてに、現代を生きるのに必要な理数系教科の素養と英語運用力をしっかり身につけさせたうえで学部に進んでもらうことを意図して作る高校です。

さらに申し上げれば、立命館アジア太平洋大学（APU）との高大一貫教育を飛躍的に強化するため、附属校政策のさらなる検討が必要ではと考えています。

竹本◆それはAPUの卒業生としては嬉しい限りです。

長田◆APUは、ご承知の通り、立命館学園の国際化推進の旗手とするべく設立したものです。長く日本とアジア各地を結ぶ窓口の役割を歴史的に果たしてきた九州の地に最もふさわしいのは、いかなる大学であるか。アジア太平洋学の確立を目指し、そして、半数は国際学生という本格的な多文化環境を活かして、世界で活躍する人材を輩出できる大学。これを理想としたのです。このAPUも、設立後五年を経て順調に育っていますから、立命館大学と各附属校とが連携して効果を上げるのと同じく、更に教育力強化を図るべく改革をすすめています。

竹本◆立命館小学校開校や、朱雀キャンパス開設についてはいかがですか。

長田◆小学校開校は念願でした。小・中・高・大、さらには大学院という一貫教育の完成をみるわけです。また、子供たちの様々な進路希望に対して十分対応できるように、立命館小学校の児童が進学する立命館中学校・高等学校の授業プログラムにも特別な工夫を施すべく準備しているところです。これは例えば、立命館大学やAPUにはない、医・歯・薬系学部への進学対策といったことです。

朱雀キャンパスには、法科大学院（ロースクール）、専門職大学院（ビジネススクール・アカウンティングスクール）ならびに学園本部が入ります。社会に開かれた大学院教学の拠点という位置づけです。社会人の院生がたくさん通って来ますから、交通の便利な場所に出ていこうというわけです。学園本部は、現在は衣笠キャンパスにありますが、どうしてもBKCやAPU、附属校が離れ小島のような意識になってしまいがちです。それで、本部を移し、各キャンパスに責任者を置いて、本部は、どこからも離れたところで統括をする。もう、立命館はこのような段階に来ているのです。

社会の支えあっての成長

竹本◆私は、高校生になる頃から、立命館は改革・拡大をアグレッシブに進めている学校であるという好印象をもっていました。APUに入学したのは、それに共感を覚えてのことです。いまは、当時の予想を超えた成長ぶりに、喜びと驚きを感じています。

長田◆その点に関連して、一つ申し上げておきたいことがあります。立命館学園の近年の発展は、すべて社会の皆様に支えていただいた結果であるということです。例えば、APUの創立に当たっては、先程申し上げた趣旨を、社会各界のリーダーの方々や地元の皆様がよくご理解くださって、様々な側面からご援助を賜ることができました。BKC開設の際も同様でした。

ですから、立命館の姿を拡張膨張主義だというのは当たりません。我々は場当たり主義ではありません。しっかりとした将来計画と財政的展望にもとづいて新規事業の是非を判断しています。またその判断の前提には、社会からの要請も直視しております。我が大学の歴史は社会の皆様のご支援あっての一〇〇年の歴史であり、これからもその期待に応えていく。この認識が大切なのです。立命館を志望する受験生が多く集まることを喜ばしく思うのは、確かに収入の面

立命館大学校友会会長
山中 諄
YAMANAKA Makoto
南海電気鉄道株式会社　取締役社長。
一九六五年立命館大学経済学部卒業。南海電気鉄道株式会社入社。二〇〇一年より社長。二〇〇四年五月、校友会長に就任。

立命館アジア太平洋大学校友会会長
竹本 慎也
TAKEMOTO Shinya
二〇〇三年立命館アジア太平洋大学アジア太平洋マネジメント学部卒業。
株式会社博報堂入社。卒業と同時に校友会長に就任。

もありますけれども、それよりも、社会に認められ、支えられていると実感できるからなのです。

長くなりましたが、我々のポリシーは以上の通りです。

学部再構築も視野に

山中◆確かに、社会の要請・期待を受けて、立命館は大いに努力を重ねてきたと思います。いわゆる拡張路線ではないとおっしゃる総長のお気持ちはよくわかりますが、片や校友の立場から見ますと、「立命館は大丈夫か。この少子化の時代に、どんどん手を広げているが…」といった、ある種の気がかりのようなものを感じても不思議ではないと思います。実は私も、内心、そういう懸念がまったく無いとは言えません。受験生がたくさん集まる時はいいですけれども、減ってきますと、従来よりも下のレベルからも合格者が出るようになるでしょうから、学生の質にも影響を及ぼす恐れがあります。

最近の立命館の学生・生徒は、確かに優秀で、これは教職員の皆様や学生たち自身の努力の賜物であると敬服しております。あとは、その努力が、社会にいかに受け止められているかということが問題です。私は企業人ですから、上場企業の役員に立命館校友がどれだけいるかといったことには注意を払っています。けれども今年度新しく社長になられた方は、ほんの数名です。まだまだ社会の壁は厚く、立命館の努力の成果が十分に表れているとは言えません。教育の質ならびに学生・生徒の質の維持向上が是非とも必要です。学園が大きくなることは喜ばしいですが、その先に、万が一にも質の低下が生じることがあってはならないと私は思っております。批判的に申し上げているのではなく、校友の皆様方も私も、母校を愛するが故に心配なのだということは、総長にもご理解いただけると思いますが。

竹本◆私は先程も申しましたように、改革・拡大のスピードがアップした後の立命館しか知らず、それに魅力を感じて入学しましたから、「拡大路線」という言葉にネガティブな意味合いは感じませんが、山中会長のお話しには同感です。更に申し上げるならば、「常に説得力を持った上での拡大」であってほしいと願っています。

長田◆お二人のお気持ちは肝に銘じます。今の立命館は、各方面から注目をいただいていますが、実は大きな岐路にさしかかっているのです。受験生一〇万人という状態が、いつまでも続くわけではありません。それに、地方公共団体が資金を出して大学を誘致するという時代も、もう終わりました。企業からの援助についても同様です。どんな団体も企業も、利益が見込めることに対してしか資金は出せないのです。企業と協力しながら、利益につながる知的資源を生み出していく。この領域をさらに広げる努力が、学園の存続発展のためには不可欠です。

それから、これまでは積極的に学部の新設を重ねてきましたね。二〇〇七年四月には映像系新学部を設置する予定です。しかし、もうこれ以上単純に学生数を増やすことはできません。けれども時代の要求に応じた新しい内容の教育を提供することも大切です。すると必然的に、既存の学部のリストラクチュアリングが必要になります。これは大変難しい問題です。今後の最大の課題、非常にシリアスな問題なのです。

一人ひとりの力を集めて深みのある校友会活動を

山中◆かつての大学であれば、社会の動きから一線を画した独立独歩の部分があっても、ある程度は許されましたけれども、現代においてはそれは無理です。周囲の環境をよく見るという、企業経営と同様のセンスが求められています。合理化、構造改革に係わる苦労は、私にもよくわかります。しかし、それができなければ、優秀な学生は集まらないでしょう。リーダーシップを発揮していただけるよう期待します。

さて、話を少し戻しますが、先程私は、大学や学生が努力しているにもかかわらず、まだ社会の壁は厚いと申し上げました。その責任の一端は、我々校友にもあると思います。社会に出た後も、母校と後輩をサポートしようという意識を、校友お一人お一人にもっとお持ちいただきたい。校友会組織も、十分に活用されているとは言えません。大学だけでも、校友は延べ二七万人、附属校を入れたら三三万人ですから、これは強力なネットワークなのですが。

竹本◆大学が改革の努力をされるのに合わせて、私たちも、校友による母校サポート体制づくりを真剣に考えなければなりませんね。

長田◆立命館に向けられる関心の高まりにつれて、校友の皆さんも以前よりも母校の動きに注目してくださっていることは頼もしく感じ、有難く思っています。

山中◆皆さんのご尽力のお蔭で、各都道府県単位、職域単位などの校友会がたくさん活動しています。けれども、どうしても一部の限られた方々が中心になってしまうのですね。その状態から一歩踏み出せる校友会にしましょう。私は、難波の歌舞伎座の横の美味しい蕎麦屋さんに時々行くのですが、そこの若旦那が校友なんです。「校友会長になられたのですね」と向こうから言われるまで、私は全くわからなかった。会報を読んで知ったのでしょうが、彼は恐ら

く校友会活動はしていません。こういう、組織からちょっと離れたところにいるけれども活躍している方、あるいは、いわゆる組織人とは別のネットワークを持っている方などに、どうやって仲間に入っていただくか。従来の校友組織に、それとは違った角度からの視点も加えた、深みのある校友会にしていかなければならない。それが私の仕事であると思っています。

長田◆校友会活動に参加することや、母校との交流に、何らかのメリットを感じていただければいいのですが、妙案はありませんか。大学としては、社会人が学びやすい条件づくりなどに努めているのですが。

竹本◆学ぶことすなわち授業を受けること、という従来の発想を超えてみれば、面白くなるのではないでしょうか。校友が仕事などを通じて身につけた知識や経験を、例えばゼミに参画するといったように、学生に近いポジションで後輩に伝えられる場が大学にあれば、我々社会人、学生の両方にとって、とても良い刺激になるのではないかと私は思います。社会に出てみて、アウトプット、何かを発信する機会が意外に少ないと感じています。APU在学中には、発表、発表で鍛えられ、それが非常に勉強になることを知っているだけに、少しばかり残念と申しますか…。知的創造ファクトリーとでも言えばよいのでしょうか。大学が、在学生だけでなく卒業生をも、それも能動性を発揮させる形で育てることができれば、素晴らしいと思います。また、在学生と校友が常に何らかの接点を持ち、お互いのことが見える関係を保つことは、校友会活動の土台作りにも有効だと思います。

長田◆なるほど。新しい観点ですね。

山中◆APUは若い大学ですから、校友と在学生の間の垣根はあまりないのでしょう。

竹本◆APU校友会では、在学生も会員としていますから。実は明日(注：一〇月二九日)、APU校友会総会を行うのですが、在学生が運営のサポートをしてくれるのは嬉しいことです。新入生の相談に乗る活動を、四回生の有志が、校友会実行委員という立場でやってくれたこともあります。行動すれば受け継がれるでしょうし、つながりが濃ければ濃いほど、良い大学、良い校友会に育つでしょう。

最大の母校応援団として

長田◆立命館大学校友会とAPU校友会が、大学の枠を超えていっそう交流を深めていただきたいものです。

竹本◆そうですね。APUの学生が立命館学園の一員であることを強く感じるのは、ほとんどの場合、就職活動の時なんですね。もっと早い段階で意識することができれば、APUという大学そのものの見え方まで変わってきて、在学中の時間ももっと充実させられるような気がします。ただ、APU校友は、卒業後世界に散ってしまいますからね。つながりをどうやって維持するかは悩ましい問題です。日常的にはインターネットを通じての情報交換が中心になるでしょう。ネットワークの構築には時間もコストもかかりますが、これは我々だけではなく、立命館の校友組織全体に共通する課題です。学園と協調して進めていきたいです。

顔を合わせての総会を開くには、世界中から集まらなければなりません。それでも前向きに、毎年会えなくても、例えば四年に一度、オリンピックか、サッカーのワールドカップをやっている場所に集まろうじゃないか、などと、楽しい話をしています。世界に類稀なる大学、APUの卒業生である我々らしくやっていきたい。立命館大学校友会の海外支部とも連携し、立命館全体の国際化を進めるために一役買える存在になりたいとも思っています。

山中◆APU校友の若いエネルギーと、立命館大学校友の層の厚さを活かして協力すれば、力強いですよ。立命館学園の一番の応援団です、校友会は。お互い独自色を出すところでは出し、協力するとなれば一枚岩になる心積もりを持って、学園とともに歩んでいきましょう。

現在、中堅・若手といわれる世代の校友の方々は、これからどんどん社会の表舞台に出て来られることと確信しています。学園や先輩の努力を肌で感じながら学んだ世代の皆さんですからね。私は、学園の元気は校友の元気に、校友の元気は学園の元気につながると思っています。校友の皆さんには、それぞれの社会的役割をまっとうしながら、その時々の立命館の姿に関心を払い、支えてくださるよう、改めてお願い申し上げます。そして立命館もいっそう頑張って、我々校友を励ましていただきたい。よろしくお願いいたします。

長田◆お二人のお話をうかがい、大変心強く感じ、また、責任感を新たにいたしました。現代社会の負託に十分応えられる立命館となるべく努めます。

山中◆今後も折にふれて話し合う機会を持ちましょう。どうも有難うございました。

立命館の動きや、学園内各校に関する詳しい情報については、立命館大学ホームページをご覧下さい（トップページから各校ページへ進めます）http://www.ritsumei.ac.jp/

安久和伸さん（'73理工）

President of Dreamtec Consulting LLC

日本の技術の一つひとつを国際ブランドに育てたい

技術経営の体現者

「技術のわかる経営者」、「経営のわかる技術者」。市場でのニーズの変化をつかんで技術開発の指針を立てるとともに、マーケッティングに力を発揮できる人材が大いに求められている。エンジニアから出発し、技術営業担当のアメリカ駐在員、現地法人社長、日本本社の海外事業部総責任者として世界中を回ってきた安久さんは、国際的なMOT（マネジメント・オブ・テクノロジー）の現場を身をもって知る人だ。

現在、ニューヨークに程近いニュージャージー州ハッケンサックに住み、アメリカへの進出を目指す日本の中小メーカーに、ビジネス展開に係わる様々なコーディネートやサービスを提供するマーケッティングコンサルタント会社「Dreamtec Consulting LLC」を経営している。得意分野は、産業機械・精密機器・電子電気機器など。キャリアの総仕上げとしての独立・起業という境地で、新たな意欲を燃やしている。

安久 やる気と、しっかりした経験があれば、仕事は自分に合った形でいくらでも続けられると思っています。それに、歳を重ねた今だからこそ、クライアントの希望をかなえて、心の底から一緒に喜ぼうという気持ちになれるんですよ。努力している日本のメーカーは、素晴らしい技術を持っています。その結晶である製品を世界に送り出し、一つのブランドとして育てたい。私にとっても、夢のある仕事なのです。

頓挫した海外旅行が結んだ実

立命館で電気工学を学んでいた頃には、英語を話せたら格好いいかもしれないと、時々ぼんやり思うだけで、外国は遥か彼方にあった。そんな安久さんが始めて海を渡ったのは、二九歳の時であった。立命館で同級だった友人に、ヨーロッパへ長期旅行に行こうと誘われ、技術者として勤めていた会社を辞めたのだ。

デトロイトでの歯車製品展示会。クライアントのブースにて。

安久 ところが、私を誘った友達は、出発直前になってその旅を断念しましてね。僕はさんざん迷った挙句、旅行ではなく、英語の勉強をする決心をしてイギリス

TSUMEI INTERVIEW

へ行きました。

まだ終身雇用が当たり前の時代で、「辞めてしまって大丈夫か?」と、よく言われました。でも、年功序列で先の見える人生に物足りなさを感じていた私の中では、外に出て、次に自分がやるべきことを見つけたいという思いのほうが強まっていたんです。苦労して探した英語学校で学び、その合間にヨーロッパ諸国を訪ねるという一年間でした。明確な何かが見つかったとは言えないのですが、長い目で見れば、この経験なしには今こうしている私はあり得ません。大きな転機を、立命館での友がくれたというわけですよ(笑)。

帰国後、元上司の「自分を安売りしてはいけないよ」という言葉に励まされ、辛抱強く職探しを続けた。就職した日本電産は、当時まだ京都の一ベンチャー企業であったが、アメリカ市場へ熱意をもつ社長に気に入られ、半年後には合弁会社の駐在員としてミネソタ州セントポールに赴任した。

安久 英語は、まだ十分ではなかったのですが、それでも、「精神的にOKならば大丈夫だ」と送り出されました。ちょうど、IBMなどの大手コンピュータメーカーがハードディスクドライブ(HDD)の生産を検討し始めた頃で、それに搭載するスピンドルモーターという世界初の製品の技術営業が仕事でした。クライアントの要望をできるだけ汲み取りたいと、打ち合わせに励み、その結果を日本にいる技術者に事細かに伝えるという日々の営業活動のなかで、アメリカの商習慣、交渉のスタイルを自分の身体に染み込ませていきました。一方で、アメリカ人のボス(合弁会社社長)が会社のマネジメントをどうするか、人をどう使うかといったことも間近に見ていましたね。

努力の甲斐あって、次々に大口の注文が入るようになり、シリコンバレーでHDDに組み込まれたスピンドルモーターは、アメリカ全土、世界各国へと旅立っていった。こうして安久さんは、日本電産の急激な成長に大きく貢献した。

そんな駐在員生活五年目のある日、歯車用切削工具等の分野では世界一の技術力を持つ精密機器メーカー、小笠原プレシジョンから引き抜きの声がかかった。ぜひとも米国進出を成功させたいというのだ。

安久 アメリカ総代理店を買収、現地法人化させることが出来れば、その新会社の経営を任せてくれるという話でした。三五歳。一年間考え抜いた末にその話を受けました。人事、経理、代理店契約に市場開拓のマーケティング、とにかく会社経営上のあらゆることを経験し、「仕事は結果がすべて」という環境で一五年間揉まれました。かつての日本では、努力の過程が何某かの評価につながることもありましたが、まだインターネットも無い時代のこと、遠く離れた日本の親会社に見せられるものは、結果しかありませんでしたからね。幸運にも在任中、一度も赤字を出したことはありませんでした。でも、正直、いろいろと苦労もしました。今ならば、「あんなことで悩んでいたのか」と思うようなことも多いですが。具体的には…、辛かったことは忘れてしまうんですよ、私は(笑)。

相手を知り、己を見据えてチャレンジ

アメリカでは、日本人の感覚をもってすると、物を売るのも買うのも難しい。進出

して成功をおさめるためには、相手と、その背景にある文化を深く理解することが不可欠であると同時に、日本の会社自身が、自社商品の位置づけを正しく客観的に評価する目を持っていなければならない。安久さんはそれらをサポートする。

安久　ある製品を、どういう分野に、どういう方法で売り込むかの戦略は、その製品と、ターゲットにする市場の事情を深く理解できる人間であってこそ立てられるという信念をもって、私は仕事をしています。

最近は中国市場も注目されていますが、私が手がける、先端技術を利用した機械や精密部品の分野に限っては、最高レベルの技術への需要は、中国ではまだ低く、アメリカの比ではありません。ただ、アメリカ人が、高い技術を認めて、それ相応の十分な対価を払ってくれる国民かというと、実はそうはいかないのです。品質の確かさと目先の価格の安さ、どちらが重視されるかといえば、後者です。それが、アメリカの製造業が本当の意味で成熟しきれない原因の一つだと思いますが。ですから、類似品との価格競争にさらされるような製品では、ほとんど利益を出せません。しかし、他の会社には作れないような、いわゆる差別化がはかられたものであれば、その価値を訴えかけて価格交渉ができますから、このへんの見極めがキーになります。

アメリカ人は交渉が達者ですよ。大胆ですしね。たとえば、会社を売る時には、拒否されるのを見越した上で、まずはうんと高い値段を提示してきます。これが文化なのです。日本では「最初にあまり高値を言うと、印象が悪いだろう」と考えがちですよね。アメリカでこれをやってしまうと、更に安いラインで折り合いをつける結果になってしまいます。

一方で、製品の納期などに関しては、アメリカ人は日本人より大らかです。きちんと理由を説明すれば理解してもらえることがほとんどです。ネガティブな部分をあまり突いてこない。これも文化なんですね。

とにかく、日本とアメリカは大きく違います。日本での成功体験を、そのまま持ち込むことはできません。このことを日本の中小企業経営者の皆様にしっかりご理解いただくことが、今の私にとって、実は最も大変な仕事なのかもしれません（笑）。

日本人は、もっと国際舞台で活躍できるはずだと安久さんは言い、クライアントはもちろん、自分自身をも鼓舞している。

安久　国際社会の中で、日本人のメンタリティの何が長所で、何が短所なのかを見極めて行動することが大切です。相手に細やかな配慮ができるのは日本人の誇れる美徳であり、合理性や効率の追求に徹しきれない、あるいは謙遜しすぎてしまうのは損な部分だと思います。自分自身をマネージして、懸念をも活力へと転換させることが究極の課題ですね。積極思考です。私は転機や苦境ではいつも、「何が起きても、命まで取られはしない」と考えて、今日まで来ました。最後はきっと何とかできる。その時々で、自分に何ができるか、どういうチョイスが残っているかを考える気力を持ち続けられれば、前に進むことができると思っています。

Kazunobu Agu

安久和伸さん

1949年　大阪市に生まれる。

1973年　立命館大学理工学部電気科卒業。
ケミカルポンプの開発設計エンジニアとして、株式会社イワキに入社。

1978年　退職し、渡英。英語を学ぶ。

1979年　日本電産株式会社入社。

1980年　日本電産と米国の商社とが設立した合弁会社へ駐在員として赴任、技術営業を行う。コンピュータ用スピンドルモーターメーカーとしての日本電産の基礎を築き、業界No.1のシェア獲得に貢献する。

1985年　株式会社小笠原プレシジョン入社。米国の総代理店を買収、現地法人化する業務にあたる。海外事業部責任者としてヨーロッパ、アジアの代理店を回り、海外セールスネットワークを構築する。

1987年　米国現地法人社長として赴任。

2001年　同社本社へ帰任。中国、韓国、台湾ならびに東南アジア諸国の代理店網を再構築。

2003年　独立し、Dreamtec Consulting LLCを米国ニュージャージー州に設立。現在に至る。

- 独立行政法人　中小企業基盤整備機構の米国在住国際化支援アドバイザー
- 米国を中心とする海外在住の日本人コンサルタントによる団体、ABPS (Alliance for Business Professional Services) のメンバー
- ゴルフ、テニス、ダイビング、セイリング、スキーなど、趣味のスポーツはいずれもプロ級。
- ニューヨーク校友会でも活躍

http://www.dreamtec.us/

恩師の窓

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します。

芝田徳造

名誉教授（産業社会学部）

●しばた　とくぞう
●1968年～1992年
●体育学

先生からの一言

人生はまさに陸上競技の長距離競走と同じです。坂もあれば、下りも平地もあります。ペース配分をうまく考えて、「一度しかない人生」を、有意義に悔いを残さず、しかも楽しくおくってください。

恩師の中の恩師である。鬼みたいで、仏みたいで…。学生時代から早いもんで、もう半世紀近く。思い出は昨日のように新鮮で、山ほどある。

先生…、というより監督かな。一九六〇年代、駅伝立命が復活した。七年ぶりに琵琶湖一周駅伝に勝ち、東京五輪の年に関西の雄として箱根駅伝にも出た。青竹とサングラス、監督がグラウンドに立つだけで、ピリピリした。インターバル、サーキットなど科学トレーニングもどんどん。駅伝練習は走りこみ、作戦は先制攻撃。瞼閉じると、合宿、レース、あの日、あの時が、回り舞台のように…。

新聞社就職決まり、報告に行った。「良かった、良かった」と喜んでもらい「あのなあ、記者の名刺出したら、警察の署長さんでも役所の偉いさんでも、会ってくれはるけどなあ。それ、会社の旗に頭下げてはるんやで。自分が偉いと思たらあかんで」…、今も耳に残る。記者一年、二年…、ついつい、取材先で横柄な態度、言葉に。そんな時、「あっいかん」と、あの言葉が甦る。思いあがりの戒め、今も財産である。この年、この立場になっても若手記者に財産伝授している。

箱根駅伝で先輩から審相の差し入れがあった。みんなに配ったら「誰に戴いたか伝えたか」と叱声もらった。「人の心、大切にせいっ」と。芝田語録は確実に人を育てる。この間、お目にかかった。「おっ、幾つになった」「六四です」「そうか、大きくなったなあ」―、そう言う先生も、大きくなられた。

教え子
岸野　洋（64法）記
京都新聞社取締役滋賀本社代表

二場邦彦

名誉教授（経営学部）

●ふたば　くにひこ
●1967年～2000年
●中小企業論・地域経済

先生からの一言

激しい変化の時代をどう読みときどう生きるか、それぞれに努力し自己革新と充電に努めていることでしょう。私も、地方都市での大学経営と地域おこしを通じ、日々新たな経験を蓄積しています。

一九七四年、二場先生のゼミに入りました。三一年前のことです。先生の専門の中小企業論は、当時も今も、決してメジャーな学問ではなく、私の暮らす広島で中小企業論の講座をもつ大学は、僅かに一つです。地域の雇用の八割弱を中小企業が担っていると言われていますが、残念なことに経済政策の柱は中小企業政策ではなかったことに関係があるのかも知れません。

ゼミでは、中小企業論の入門書を読み解いたり、日本の伝統産業を調べたりしました。ゼミに遅刻をしてもあたたかく迎えてくださったり、中途半端な卒論を受け取ってくださったり、卒業し社会人になれたのは先生のお蔭でした。

私が中小企業経営者の団体に勤務していることもあり、卒業後も先生には様々なご支援をいただいています。先生の学問は、人間を愛する優しさと真理を追究する厳しさの二つの側面をお持ちです。「利益や効率追求だけを重視する日本経済ではなく、生活している人のニーズや実感にきちんと応える経済にしていく。そのためには、中小企業の果す役割が非常に大きい」と中小企業の存在意義を説かれたり、「目指すのは自主的近代化。そのために経営の理念や戦略を明確にし、社員とともに実践することです」と方向性を示していただきました。

二〇〇〇年、京都創成大学の学長に就任されました。学問の探究に加え、学校経営という激務の日々を過ごされていると思いますが、どうか無理をなさらず、末長くご指導くださることを願っています。

教え子
国広昌伸（76経営）記
広島県中小企業家同友会事務局長

ご当地検定

地域文化・歴史の伝承の新しいかたち

戸祭　達郎
立命館大学　経済学部教授

なぜ今、ご当地検定がブームとなっているのでしょうか？

A 日本人には「お祭り好き」という特性があり、町や村の祭りや博覧会などイベントに参加したりします。もうひとつの特性が「学び好き」にあると思います。人の知的好奇心が美術館や博物館へ誘い、カルチャーセンターが流行るのはそのためです。さらに一歩進めて、自分の実力を評価され、試してみたいという気持ちを強くもっている。そのことが資格取得や検定に人を向かわせるのではないでしょうか。一方、観光のPR、観光客を受け入れる側では、観光案内ガイドの育成など、観光産業の活性化とその地域の住民が観光客を迎える知識や心構え・ホスピタリティを醸成することによって、地域ブランドの創出や地域を活性化するという狙いもあるかもしれません。従って、検定にはその土地ならではという特色が活かされないといけません。

京都・観光文化検定試験（京都検定）より以前に実施された検定には、沖縄旅行地理検定、東京シティガイド検定、博多っこ検定、秋田のナマハゲ伝統士認定試験があります。最近ではとりわけ京都検定に人気が高く、約一万人が受験し、受験者の年齢層も二〇代から六〇代と幅広く、あらゆる年齢層に支持されました。最近では、彦根商店街連盟が一一月一一日に「彦根城下町検定試験」、一一月二〇日には、金沢経済同友会が第一回「金沢検定試験（通称:金沢検定）」を実施しました。今後は福岡（九州観光マイスター）、岡山（文化観光検定）、石川（ほっと石川観光マイスター制度）や長崎、奈良などの商工会議所でも検討され、さらに、京都市においても京都の誇る伝統文化・歴史に興味を持つ子を育てようと小・中学生を対象にした「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定（通称:ジュニア京都検定）」を二〇〇六年秋に実施予定です。滋賀県は二〇〇六年に実施を検討中です。また、札幌商工会議所では二〇〇四年一〇月に札幌シティガイド検定が実施されましたが、それとともに北海道の食材の生産性などを扱う「北海道フードマイスター認定制度」を二〇〇五年一二月に導入します。これを機に観光以外の地域検定の実施も検討されはじめています。まさに「ご当地検定」ブームと言って良いでしょう。

ご当地検定の実施によって、行政や産業にどのような影響がありますか？

A 行政の立場からの期待は、検定そのものが地域や観光地のPRになるだけでなく、その地域を良く知った人が増えることによって観光客を受け入れる側の意識も向上し、おもてなしの質が高まって、相乗効果により地域の

キーワードから見る
現代

ご当地検定
地域文化・歴史の伝承の新しいかたち

最近、各地で地域の歴史や文化、観光に関する知識を持つ人を認定する「ご当地検定」がブームとなっている。
そのブームのきっかけとなった京都・観光文化検定試験（京都検定）は、
昨冬に第1回目の試験が実施され、1万人近くの受験者を集めた。
2回めの今年は、それを上回る1万3千人が受験予定である。
そして、京都検定に続けとばかりに各地の商工会議所で相次いで実施を検討しており、
今後更に様々な検定が行われることになっている。
今回は、観光学がご専門の経済学部の戸祭達郎教授に、ご当地検定についてお話をうかがった。

ブランド価値が高くなることでしょう。京都検定の場合、都道府県別受験者の割合をみると京都府が七〇%、大阪府が一〇%、滋賀県が四%、東京都が三%、兵庫県三%、神奈川県二%、奈良県一%、愛知県一%、千葉県一%、その他五%で関東が七%と受験者が全国に広がっていて、関心の高さがうかがえます。ご当地検定を検討中の全国の商工会議所や県などの関係者が、京都検定を成功の先進事例としてヒアリングのために京都商工会議所を訪ねてきています。もともと京都検定の前には『京のおもてなしハンドブック』があり、会員へのサービス向上が進められてきましたが、今回の検定により、さらに高いレベルのサービス・おもてなしがされ、より多くの人が京都を訪れ、経済効果も期待できそうです。京都商工会議所によると、まだ検定そのものでは、収益が生まれるところまではいっていないとのことでした。

今後、検定はどのようになると思われますか？

これからは検定に合格した人たちをどのように活用していくかが重要です。合格した人たちは、自分の力をどこかで発揮できる場所やチャンスを求めています。行政側からは合格者を地域の観光人材として観光案内ボランティアや観光プロデューサーとして育成し、従来の国家試験の通訳ガイド試験に加えて、新たに都道府県レベルで実施される「地域限定通訳案内士」資格試験へとレベルアップできるチャンスも生まれ、海外からの観光客の案内もでき、案内分野が広がる可能性もあります。ご当地検定や地域限定通訳案内士が地域の歴史・文化の伝承、観光のサービス人材育成に役立つことになるでしょう。京都検定でも、合格者を対象にブラッシュアップ研修という事後研修を行い、実際に京都の文化に触れることができる機会を設け、定着を図っています。

京都歴史回廊協議会では、京都検定合格者に「きぬかけの路」の案内や京都歴史回廊・文化塾の講師としてもひと役かってもらいたいと願っています。最後に、京都検定にはテキストブック共同執筆者のひとりとして本学理工学部教授の山崎正史先生が活躍されたことを誇りに思います。

※取材にあたり、京都検定の推進にあたられた京都商工会議所の堀口亜希子氏（91法）にご協力いただきました。

Profile
とまつり　たつろう
立命館大学経済学部 教授
[専門分野]
観光学

■ 主な著書・論文
- 「博覧会が地域振興に与える影響についての分析」（2001年日本観光研究学会）
- 「旅行療法についての考察」（2002年日本観光研究学会）
- 「旅行は健康を促進する」（2005年公衆衛生・医学書院）

All Rits 立命館校友大会2005

校友大会本会場

満員の会場

メイン会場内 過去最多の1,700名が集い、オール立命館の絆を強めた秋の日

軽音楽部

応援団による閉式ステージ

挨拶する山中校友会長

肩を組んで

守山女子高校同窓会
早苗会の皆さん

大抽選会 校友会長賞の贈呈

APUから参加した皆さん

11月5日（土）、恒例の校友大会が、ホテルグランヴィア京都で行われた。
今年はAll Rits　と銘打って2年目。
立命館大学校友会、ＡＰＵ校友会、立命館中学校高等学校同窓会清和会、
立命館宇治中学校高等学校同窓会鳳凰会、立命館慶祥中学校高等学校同窓会、
加えて各附属校の教育振興会・保護者会、卒業生父母の会等の団体から、
あまねく参加者があり、立命館学園創造の主体者として、互いに気持ちを固めあった。

京都駅ビル外周の、室町小路広場・駅前広場では、
現役学生・生徒らが「学園祭プレステージ」を繰り広げ、
好天のもとで往来の延べ5000人に元気で華やかな演技を披露した。
伸びゆく立命館の若人たちが、秋の京都駅に、ひとつの風物詩を紡ぎ出していた。

藤岡真弓さんと軽音楽部OBのジャズステージ

伊丹典子さんのマンドリン演奏

伍芳さんの中国古箏ステージ

All Rits
立命館校友大会２００５

学園祭プレステージ

エンディングステージ

京都駅大階段を埋める観客

立命館宇治高校チアリーダー部

「乾杯！」の声響く

りつめい読者の会レポート3

11月26日（土）京料理 木乃婦
高橋拓児さんのワイン会席を堪能

校友会広報委員と読者の皆さまの交流の場「読者の会」、早くも三回目を迎えました。

毎年、その年の誌面にご登場いただいた旬の校友にお話しを伺う、あるいは記事の内容を追体験してみるといった形で、「交流、誌面に対する意見交換、プラスアルファのお楽しみ」の三拍子が揃った会となるように、委員一同心がけています。

今年は、二二二号の表紙を飾った気鋭の料理人、高橋拓児さん（91法）のお店「京料理木乃婦」に、総勢四三名が集まりました。「常にグローバルな視点に立って自らの料理表現を磨いていく」と仕事への意気込みを語る高橋さんのお話しと、この日のために趣向を凝らしてくださったワイン会席料理を楽しみながらの、和やかな三時間となりました。

読者の皆さまからは、急速に発展する母校立命館大学の動向、あるいは様々に活躍する校友の動向への関心が示されるとともに、母校・校友会と校友一人ひとりとを結ぶ主な手段としての校友会報「りつめい」への期待・励ましのお言葉をいただきました。

広報委員会は、皆様にいっそう親しまれる「りつめい」誌をめざして努力してまいります。今後もご支援のほどよろしくお願いいたします。

京料理 木乃婦

校友会ネットワーク

本年9月下旬〜12月上旬に行われた各団体の行事です（判明分）

都道府県校友会ほか

- 9/23　兵庫県校友会総会（250名・ホテル日航姫路）
- 9/25　埼玉県校友会総会（40名・ラフレさいたま）
- 10/1　Ritsちば校友の集い（114名・船橋グランドホテル）
- 10/22　茨城県校友会総会（30名・水戸三の丸ホテル）
- 10/29　石川県校友会総会（100名・金沢ニューグランドホテル）
- 11/8　和歌山県校友会総会（100名・ダイワロイネットホテル和歌山）
- 11/11　鳥取県東部校友会総会（58名・白兎会館）
- 11/12　愛知県校友会総会（430名・名鉄グランドホテル）
- 11/12　宇部・小野田校友会総会（30名・堀辺旅館）
- 11/12　宮崎県校友会総会（50名・ホテルメリージュ）
- 11/17　鳥取県西部校友会総会（50名・米子全日空ホテル）
- 11/18　福岡県校友会総会（250名・JALリゾートシーホークホテル福岡）

兵庫県校友会総会

埼玉県校友会総会

茨城県校友会総会

石川県校友会総会

鳥取県東部校友会総会

宇部・小野田校友会総会

宮崎県校友会総会

福岡県校友会総会

- 11/19　宮城県校友会総会（35名・勝山館）
- 11/23　広島県東部校友会総会（70名・福山ニューキャッスルホテル）
- 11/25　北九州校友会総会（70名・ステーションホテル小倉）
- 11/26　佐賀県校友会総会（40名・はがくれ荘）
- 12/3　東京校友会総会（181名・虎ノ門パストラル）
- 12/3　鹿児島県校友会総会（170名・サンロイヤルホテル）

宮城県校友会総会

広島県東部校友会総会

北九州校友会総会

佐賀県校友会総会

地域校友会

- 10/7　北摂会総会（60名・ホテルアイボリー）
- 10/22　愛媛県校友会今治支部総会（20名・「笹」）
- 10/22　立命館丸岡町校友会総会（25名・料亭「ほんだ」）
- 11/22　駿府会総会（47名・クーポール会館）
- 11/26　丹後地区校友会総会（20名・プラザホテル「吉翠苑」）

職域校友会

- 11/8　立命社労士会（35名・大阪オフィス）
- 11/22　兵庫県庁清和会総会（40名・兵庫県民会館）
- 11/24　神戸市教職員「朋命会」総会（22名・ホテルモントレ神戸）

神戸市教職員「朋命会」総会

Alumni Association Network

＊詳しくは校友会ホームページをご覧下さい http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/

- 11/25 広島県庁校友会総会（25名・八丁堀シャンテ）
- 11/26 愛R会総会（35名・百楽）

学部・学科校友会

- 9/23 英米文学同窓会総会（33名・京都ガーデンパレス）
- 10/21 建設会愛知県支部総会（70名・名鉄グランドホテル）
- 10/23 数物会総会（85名・京都タワーホテル）
- 10/23 建設会京都支部総会（150名・京都タワーホテル）
- 11/12 国際関係学部校友会総会（70名・つばめグリル）
- 11/12 西洋史学専攻同窓会総会（22名・衣笠キャンパス 明学館82号）
- 11/26 村上弘ゼミ同窓会総会（24名・京都商工会議所）

英米文学同窓会総会

数物会総会

建設会京都支部総会

サークルOB・OG会

- 9/18 軽音楽部OB会総会（80名・三井アーバンホテル大阪）
- 9/18 経営研究会同窓会総会（20名・京都新阪急ホテル）
- 10/8 MTBツーリングサークル花鳥風月OB会総会（28名・がんこ河原町店）
- 10/29 放送局OB会総会（70名・BKCエポック21ホール）
- 11/5 経済学研究会OB会総会（30名・リーガロイヤルホテル京都）
- 11/12 男子ソフトボール部OB会総会（30名・京都タワーホテル）
- 11/16 スポーツフェロー「総長を囲む集い」（70名・京都全日空ホテル）
- 11/19 法律相談部創立50周年記念OB･OG会総会（50名・衣笠キャンパス　中川会館）
- 11/19 ヨット部60周年祝賀会（120名・京都ホテルオークラ）
- 11/19 証券研究会OB会総会（33名・聖護院「御殿荘」）
- 11/26 空手道部OB会総会（140名・ルビノ京都堀川）
- 11/26 民科法律学生部創立50周年記念の集い（100名・衣笠キャンパス・創思館）

法律相談部OB･OG会総会

空手道部OB会総会

その他の会

- 9/17 清和会総会（1100名・ウエスティン都ホテル京都）
- 9/17 立命館宇治高校同窓会（120名・烏丸京都ホテル）
- 9/25 下鴨寮寮友会「下鴨会」（25名・KKRくに荘）
- 10/28 32電友会総会（30名・六甲山ホテル）
- 10/29 慶祥中高同窓会創立70周年記念祝賀会（600名・札幌パークホテル）
- 10/29 山手・徳川会総会（20名・末川会館）
- 11/23 衣笠寮友会総会（11名・京都タワーホテル）
- 11/26 吉田寮寮友会総会（50名・ルビノ京都堀川）
- 11/26 遠藤晃ゼミOB会総会（200名・以学館地下食堂）

32電友会総会

慶祥中高同窓会創立70周年記念祝賀会

衣笠寮寮友会総会

Special 2
特集2

産学連携で拓く大学の未来展望

産学連携評価全国1位　立命館大学リエゾンオフィスの到達点

近年、大学の知を社会に還元し広く活用するためのシステムとして、
「産（官）学連携」が注目されています。
その産官学連携の産業界、官公庁、学内での窓口であり
様々なコーディネートを行うのが立命館大学リエゾンオフィスです。
産学連携に初めて「リエゾン（liaison）」という名称を用いたのが立命館大学です。
その「リエゾン」という言葉も今や日本全国に広く定着し、
「リエゾン」を称した産学連携組織が多数生まれています。

BKCリエゾンオフィス課長　野口　義文

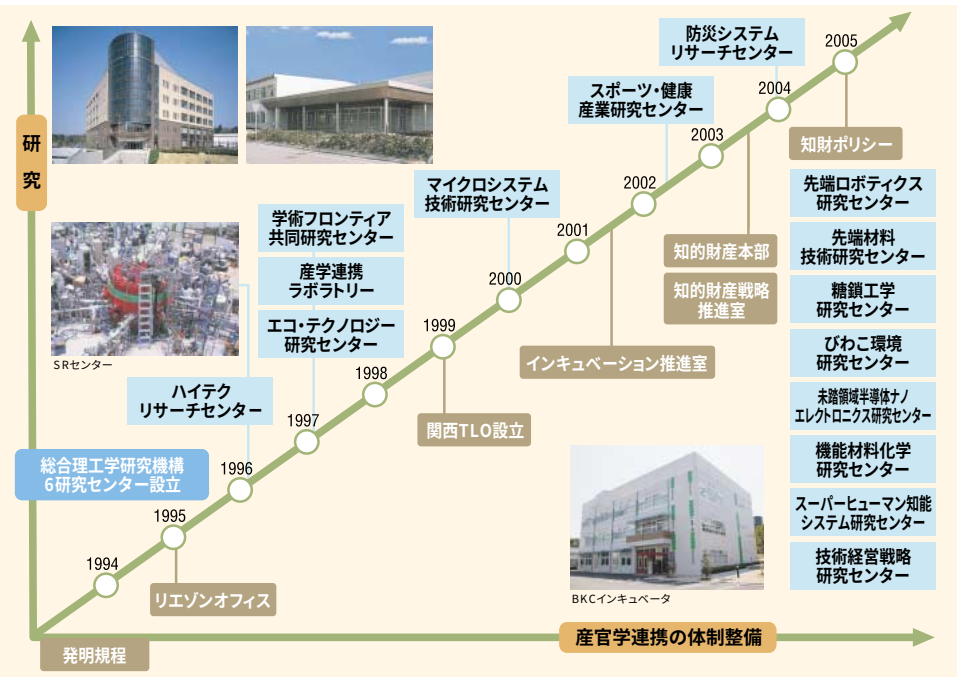
リエゾンオフィス一〇年の節目を迎えて

二〇〇五年、リエゾンオフィス開設から一〇年を迎えました。この節目の年に経済産業省が実施した産学連携に関する調査で、立命館大学が全国一位にランキングされました。さらに、毎年京都で開催されている「産学官連携推進会議」において、初代リエゾンオフィス室長である田中道七先生（現総長顧問）が産学官連携功労者表彰・経済産業大臣賞を受賞しました。

これらは、本学が全国でもいち早く本格的な産学連携の推進拠点、すなわちリエゾンオフィスを立ち上げ、産学連携のシステム作りを進めてきたこととその実績への評価といえます。とりわけ前者は、経済産業省が全国の企業を対象にアンケート調査し集計・分析したもので、本学の産学連携の取組みに対し連携企業から「量」的側面でなく、「質」的側面での高い評価をいただいたものであり、大変名誉なことと思っております。

しかし、いただいた評価は「これまで」の活動に対するもので、「現在」や「未来」の活動への評価を約束するものではありません。加えて、一〇年前には珍しかった産学連携も、今や日本全国の大学が真剣に取り組みを開始し、国立大学の独立法人化以降はその動きがますます加速されています。リエゾンオフィスとしての一〇年間の歴史とその間の蓄積は立命館大学の大きな財産ですが、常に成果が求められる産学連携にアドバンテージはありません。私たち

図1　びわこ・くさつキャンパスにおける「産官学連携整備の歴史」



リエゾンオフィスは、今、過去一〇年で培われた「経験と実績」を活かしながら、新たな産学連携ステージへと成長・脱皮することの大切さを実感しています。

リエゾンオフィスの誕生と歩み

リエゾンオフィスは、一九九一年に理工学部の衣笠キャンパスからびわこ・くさつキャンパス（BKC）への移転決定を機に開設された寄付事務局を母体としています。一九九五年に寄付事務局から「リエゾンオフィス」に改称し、衣笠、BKCの両キャンパスにそれぞれ設置されています。図1は、びわこ・くさつキャンパスにおける「産官学連携整備の歴史」です。

ユニークな立命館型産学連携スタイルの実現

本学の産学連携の特長は、産学官連携功労者表彰の受賞理由にもあげられているコンサルタント型、ワン・ストップ・サービス体制にあります。

「コンサルタント型」とは、当初から教員と職員が連れ立って企業を訪問する「営業」ともいえるスタイルから確立されたものです。寄付事務局の時代、すでに企業を訪問するだけで寄付を提供してもらえる時代は過ぎていました。企業が抱える問題解決に対して大学は何ができるのか、技術指導や共同研究などの研究交流を提案していくことなど、多くの試行錯誤の中で、さまざまな取り組みがなされてきました。

これら一連の活動が一定の進化を遂げた現在、パンフレットやホームページで「リエゾンプラン」と称し一般に公開されているメニューは、表1のように豊富になりました。近年では他大学のメニュー表にも同様のものが見られるようになってきています。本学リエゾンオフィスでは、これらのメニューを活用しながら連携先ごとに最適な提案をしていく、まさに「コンサルタント型」の活動を実践しています。

コンサルタント型営業を実行する最大の武器は、今も昔も、教員との二人三脚での企業訪問にあります。実際、今でも、「大学からDMが届くことはあるが、先生が来たのは初めて」と驚かれるくらいで、一〇年前は革新的な方法であったことは間違いないでしょう。

研究コーディネートを行う際に企業に理工系施設を見学していただくことも重要であるため、企業に来校いただく件数も増加しています。表2は、企業訪問・企業来校件数です。

次に「ワン・ストップ・サービス」ですが、これは、対外的にも学内的にも産学連携に関することはすべてリエゾンオフィスにお任せいただく、窓口は全てリエゾンオフィス、ということです。

リエゾンオフィスの機能は大きく分けて四つあります。

①研究コーディネート機能（受託研究、共同研究、技術指導などの研究交流推進）
②研究プロジェクト・マネージメント機能（研究プロジェクトの企画、申請、採択後の運営）
③知的財産マネージメント機能
④ベンチャーインキュベーション機能

これらの機能をひとつの事務局、すなわちリエゾンオフィスに統合することの利点

表1　産官学連携メニュー

産官学連携メニュー	概　要
受託研究	民間企業、公的研究機関から委託を受けた課題について研究。
共同研究	民間企業、公的研究機関から共同研究員を受け入れて共同で研究。
奨学寄附金	教育研究援助を目的とした、教育組織や教員個人に対する寄付金・設備の寄附。
技術指導（受託研究の一環）	民間企業、公的研究機関研修者に対して、有料で技術指導を実施。
レンタルラボラトリーの利用	大学内に「産学連携ラボラトリー」を設置し、研究交流企業に対し、大学の研究室と密接な研究交流ができるように実験室をレンタル。
研究装置のレンタル	研究センター内に設置されている装置・研究機器の利用。
ベンチャーインキュベーション	大学内にインキュベーション施設を設置し、インキュベーションマネージャーが技術面、経営面などの支援を行う。
知的財産の発掘・管理・活用	大学等の知的財産の創出・管理・活用を基本に、その活用、ライセンス化等を行う。
会員制研究コンソーシアム	年会費（10万円等）を企業から受け取り、研究コンソーシアムを結成したうえで、技術動向報告、技術講習会、研究会などを開催。
公的研究プロジェクトの申請および進捗管理	地域新生コンソーシアム研究開発事業など、公的研究プロジェクトを活用するための申請および進捗管理。
社会人ドクターコースへの受け入れ	企業から社会人を受け入れ、大学での研究を通じてドクターを養成。
寄附講座プロジェクト・寄附講座	民間企業からの寄附によって研究プロジェクト・学科目を設置・開講。
その他管理業務	リエゾンスタッフによる大学教員への産官学連携に関する意識啓発、研究交流への参加呼びかけ、技術シーズ発表会の開催、他機関との連携等。

表2　企業訪問・企業来校件数（BKCリエゾンオフィスのみのカウント）

	2004年度総計	2005年度（上半期:6ヶ月計）
訪　問	1062件	623件
来　校	1272件	746件
合　計	2334件	1369件

は、どこから見ても窓口が「わかりやすい」ことがあげられます。また、ひとつの研究プロジェクトを多面的に捉え、「知的創造サイクルへと循環しやすい」ことも重要なポイントです。たとえば、ある受託研究の成果を基に、大型研究公募プロジェクトへ申請、更にはそのプロジェクトで生み出される成果（特許）を企業に技術移転し、そして事業化を推進する。また、担当の企業側研究員は、社会人ドクターとして、本学大学院へ入学し、研究の専門性を更に高めていく、と言ったように、ひとつの研究がこのような多面的な展開に至るケースもあります。

知的財産マネージメント

ここ数年の産学連携活動で特筆すべきものとして「知的財産マネージメント」があります。

本学では、二〇〇三年文部科学省「大学知的財産本部整備事業」モデル校選定を受け、知的財産本部を設置し本格的な知的財産マネージメントが始まりました。今年度で三年目を迎えます。

本学の知的財産本部は、学内における「知的財産の創出・保護・管理・活用」を統括する全学機関です。その実働部隊をリエゾンオフィスに置くことで、本学の特長である産官学連携事業との一体化を実現していることが特徴としてあげられます。今年の夏、文部科学省「大学知的財産本部整備事業」の二年間の実績を踏まえた中間評価において、本学は最高評価であるA評価（優れた体制が構築され、計画以上に効果的な取組が行われている）を受けました。全国の本事業選定四三機関のうち、A評価を受けたのは、表3のとおり、一四機関となっています。

表3　「大学知的財産本部整備事業」中間評価　A評価の機関

評　価	機関名
A	北海道大学、東北大学、東京大学、東京農工大学、東京工業大学、電気通信大学、名古屋大学、京都大学、山口大学、九州大学、奈良先端科学技術大学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学、立命館大学

最後に
―進化するリエゾンオフィス

一九九〇年代の後半から高まった「産学連携」への期待と並行して、「大学に何ができるのか」が大きく問われるようになってきました。大学の使命である「教育」、「研究」、そして「社会貢献」のうち、「社会貢献」は、「教育」と「研究」の結果をいかに世の中に還元していくかという方法・体制の構築とその実践そのものであるとリエゾンオフィスでは考えています。

従来の「産学連携」は、きっかけが地域・産業界の要求（ニーズ）であるか、大学の研究テーマ（シーズ）であるかに限らず、大学の技術・知恵を社会に適応するよう加工し移転することでした。これから大学に求められるのは、即効性はなくとも社会に貢献すると確信を持てるテーマの設定、社会に何が必要か目標を定めての研究、そして、それらを社会で実現するための強い意志といったものになるでしょう。また、専門性に加え、研究意欲と社会性を身に付けた研究者の養成も重大な責務となります。

これらを踏まえ、リエゾンオフィスでは全国の大学に先駆け、大学の教員・研究室と一体化した研究高度化を推進する組織へと脱皮することを計画しています。

第一に、リエゾンスタッフは、研究推進・産学連携のプロを目指します。①研究室の研究計画、外部資金導入計画立案等にビルトインし、②シーズ、知的財産のマネージメントを担い、③個別研究のプロジェクトのコーディネート、申請、運営を支援・推進・管理し、④研究成果を公表、社会での活用を推進する、「専門性の高い人材」の育成を一層強化します。

第二に、研究推進システムの整備・充実を目指します。リエゾンオフィスの機能拡充で個々の研究室との関係をより強固なものとしていきます。具体的には、以下を実践していきます。

①研究室への理解を深める（研究方針や計画、学会や社会の方向性等）
②研究計画・推進への支援を強化する（学外資金導入計画の情報提供等）
③研究室単位の知的財産マネージメントを支援する（発明発掘、計画的な権利化推進等）

以上の目標を掲げ、リエゾンオフィスは「教・職一体」となって、産学連携の新たなステージへの第一歩を踏み出し始めています。ただ、産学連携は、これからますます進化していきます。産学連携を推進する「高い志を持った集団」をいかにして作るか、これが我々に与えられた究極の命題だと思っています。「産学連携は人なり」、この言葉を胸に刻み、我々は立命館大学の研究高度化に貢献していきたいと考えております。

外務省主催の「ODA(政府開発援助)民間モニター」事業が、今年度はパキスタンにおいて行われた。政策科学部4回生の鈴木美佳子さんは、倍率20倍以上という厳しい選考を突破し、現地に渡ってODAの実情を学ぶとともに、報告書をまとめた。将来、開発の現場や国際機関で政策の決定に携わりたいと語る鈴木さんに、パキスタンでの経験や今後の夢などについてうかがった。

Rits One ときの人

鈴木美佳子さん

ODA民間モニター　政策科学部4回生

Mikako Suzuki

「実体験に即したことを語りたい」
開発の現場で学んだことを将来に活かす

外務省のODA民間モニター制度とはどんな制度なのですか。

日本が海外で行っているODAの現場を民間人が直接視察、検証、報告することによって、ODAをより透明で、効率的、効果的な援助にすることを目的に、1999年度から行われている制度です。モニターは、国際協力に関する知識を問われることと、帰国後の活動計画や小論文などの選考を経て選ばれます。私は、1回生の時に弁論部の活動として外務省主催の弁論大会に出場した際、「ODAの必要性」について勉強したことがありました。それ以来、大学の授業で学んだり、本を読んだりしながら、ODAや国際協力について勉強を続けていました。また、将来の目標と関連する部分もあり、普段滅多に行くことのできないパキスタンという国の現状を知りたいと思い、モニターに応募しました。

実際に行ってみてどんなことを感じましたか。

私が現地で感じたことは、パキスタンという国の貧富の差の著しさと、宗教的な問題もあるのですが、ジェンダーギャップ、そして、簡単には解決されない、地域的・文化的な因習のようなものの存在です。因習の例としては、ダウリー（花嫁持参金）問題などのように、女性が嫁入りするときに持参金を持っていくという習慣から起こる、殺人や暴力事件があげられます。

日本でODAについて学んでいたときは、現状の支援の方法について、もっと直接的な支援を行えばいいのにと感じていましたが、現地で貧富の差を実感したことによって、一筋縄ではいかない開発援助の実態がわかってきました。パキスタンには、識字率の低い貧困層が多く中間層が非常に少ないという二極化の現状もあり、政策を決定する側である一部の富裕層の行動を監視することができない状態にあります。そこで日本はODAの方針として、中間層を養成して富裕層の行いを監視する社会的モニタリング能力を育てようとしているのです。この援助方針を、まだ現場を知らなかった頃の私は回りくどいと感じていたのです。

また、私は政策科学部のゼミで、ジェンダーデベロップメント（開発における性差）について学んでいます。パキスタンの女性の就職率の低さや、宗教的な理由で女性一人では外を歩くこともできないというようなジェンダーギャップを目の当たりにし、改めて問題の深刻さを実感しました。

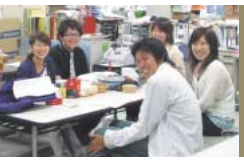
帰国後、ご承知の通りパキスタンは大地震に襲われて、大変な被害が発生しています。被災した北西辺境州は日本では考えられないほど貧しいところです。ぜひパキスタンへの募金活動などに協力してもらえたらと思います。

今回の経験を今後どのように活かしていこうと考えていますか。

私は弁論部で活動していた頃から、「実体験に即したことを語る」ということを心がけてきました。開発援助の現場の実情には強烈なインパクトがあり、ショックを受けることも多々ありましたが、だからこそ自分の学びの方向性を固めることができたと思います。私は国際関係研究科に進学することが決まっています。その国の女性の地位がどうなっていくかということは、その国の人々が決定することではありますが、地域的・文化的な因習を解消できるような政策をたて、社会を変革していけるように、さらに勉強していきたいと思っています。

すずき　みかこ
立命館大学入学後、弁論部で活動。農林水産大臣杯争奪全国学生弁論大会で特別賞受賞。ほかに外務省主催の大学生・国際問題討論会でベストディベーター賞を獲得するなど優れた成績を収める。3回生時は部長。

ホームページもご覧下さい
http://www.ritsumei.ac.jp/infostudents/index.html



立命館学園政策ニュース

映像系新学部の設置構想を発表

立命館大学では、デジタル時代の映像コンテンツ産業を担う人材育成を目的として、二〇〇七年四月開設を目指して、総合大学としては全国初となる映像系新学部の設置に取り組むことを決定しました。

新学部は京都・衣笠キャンパスで開設、入学定員は一五〇名を予定しており、文部科学省に設置認可申請するための準備を進めています。

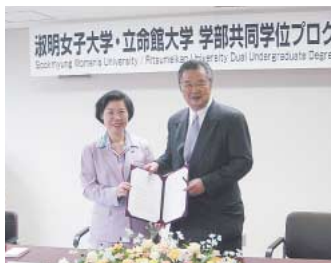
映像系新学部では、①世界に通用する映像文化の創造と映像産業の発展を担い、アジアとの交流ができる人材を育成する、②京都を拠点とした映像文化のプロデュースを通じて、関西・京都を中心とした新産業の創出に貢献する、③映像製作を通じて国際社会で通用する「コンテンツ・プロデューサー」を育成する、④総合大学として、二一世紀文化を創出する文理融合の教学を展開する、以上のことを基本コンセプトとして、教育システムやカリキュラムの検討を進めています。

教育内容の特色として、海外の映像拠点や京都の撮影所等との交流・連携を積極的に推進し、実習を重視したインターンシップや海外スタディなどを行います。また、映像に関する知識・技術の修得にとどまらず、優れたコンテンツを創出しうる能力を育成するために、哲学、歴史学、心理学、美術史といった幅広い教養を重視した教育を行います。

海外の大学との共同・連携が進む

立命館大学と韓国の淑明女子大学は、「学部学位共同プログラム協定」を締結しました。これは、最短四年間で日韓二つの大学の学位を取得できるプログラムで、立命館大学としては米国のアメリカン大学に続く二つ目の実施となります。淑明女子大学は、韓国初の私立の女子大学として創立され、韓国で大学改革に積極的な大学として六年連続で選ばれるなど、韓国屈指の総合女子大学として発展しています。当面は淑明女子大学の学生の受け入れプログラムから開始し、今後本学からの派遣プログラムを検討していきます。

研究面での交流も進んでいます。かねてから交流のあったベトナムのハノイ工科大学との間では共同研究協定を締結しました。この共同研究は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）開発支援研究協力事業の一環として、「ベトナムの先端技術産業創生のためのMEMS研究開発拠点の形成」プロジェクトに取り組むもので、①ベトナムでの先端技術産業創生を目指したMEMSの研究開発拠点の形成、②研究者・技術者の教育・研修のできる施設を創設しスタッフを育成することを目的としています。



また、立命館大学大学院法学研究科は、韓国のソウル市立大学税務大学院との間で研究交流覚書を締結しました。ソウル市立大学税務大学院は、韓国でも数少ない税法研究者の拠点大学のひとつであり、今回の研究交流覚書にもとづき、本学とともに、国際所得課税、国際法人課税など日韓両国間の税法問題に関する国際共同研究を推進します。

国際社会で活躍する人材養成のためのプログラムが開講

立命館大学では、グローバル化する国際社会で活躍する人材を養成するための様々な教育プログラムを立ち上げています。

二〇〇五年度後期には、モチベーションの高い優秀な学生を励まし、難関進路への挑戦をサポートする「オナープログラム」として、国家公務員I種や、外務省専門職、NGOや国際商社などで活躍する人材を育成することを目指し、岡本行夫客員教授をスーパーバイザーに迎えた人材養成特別プログラムをスタートしました。

日本を代表して国際社会で活躍するためには、学力や知識、経験はもちろんのこと、幅広い教養や良識など、総合的な能力が求められます。プログラムは三月まで続けられ、選抜された一六名の受講生（一、二回生）が、月一回のゼミナールにおいて岡本行夫客員教授と国際社会の様々な課題に取組むとともに、サブゼミやフィールドワークなどを通じて、将来国際社会で活動できる幅広い能力と学力を育成します。

また、立命館大学大学院国際関係研究科では、国際機関職員を志望する大学院学生を対象にしたプログラム「国際機関ワークショップ」を二〇〇六年度より発足させます。国際機関への道を開き、国際的な問題の解決に力を発揮する人材を養成するものです。受講生は、現役の国際機関職員による講義とゼミナール、アカデミック・アドバイス等を通じて、国際機関の活動への理解を含めて、自らの進路実現にむけて専門力量と経験を身につけます。

さらに、企業の社会的責任が注目を集めるなか、立命館大学大学院政策科学研究科は、二〇〇六年度より「社会的責任（CSR）プログラム」を新たに開講します。プログラムの開講にあたって、一〇月には監査法人トーマツおよび株式会社トーマツ環境品質研究所ならびに近畿青年税理士連盟京都支部との学術交流協定を締結し、協定科目の開設や客員教授の招聘により、最先端の社会的マネジメントを講義することとなります。

オムロン株式会社との産学連携

立命館大学とオムロン株式会社は、企業法務において即戦力となりうる人材育成に向けた産学連携プログラム「法学コーオプ演習」を二〇〇五年九月よりスタートしました。コーオプ教

育とは、就業体験を中心としたインターンシップに比べて、長期間（三～六ヶ月程度）にわたって大学での学習と企業での専門分野に関連した実務体験を結合させた新しい産学連携教育のことです。今回のプログラムでは、法学研究科の院生が本学教員とオムロン法務担当者による指導を受けながら、企業法務の現場における実践的な課題と自らの研究を結びつけてより高度な専門性を身につけます。

一方、理工系分野での産学共同も進んでいます。一一月七日には、立命館大学とオムロン株式会社による共同研究の成果発表が行われました。二一世紀COEプログラム「マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム」の研究活動の一環である「通信機能搭載型MEMSの研究」において、RFIDシステムを応用した電池レス無線センサー端末"NA-MEMS"（Smart Nano MEMS）を開発しました。これは、微小な無線チップによって人や物の識別や管理を行うRFID技術と半導体技術を用いて作られた微小な電気機械システムのMEMSセンサーを融合させることで、センサー端末に電池を使用せず、センサーデータの無線伝送が行えるものです。たとえば山肌に設置して、がけ崩れの兆候を感知するなど、様々な用途での利用が期待されています。

文部科学省「魅力ある大学院教育イニシアティブ」（大学院GP）に採択

先端総合学術研究科の「プロジェクトを基礎とした人社系研究者養成（プロジェクトベーストプログラムの構築）」が、文部科学省の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」（大学院GP）に採択されました。

大学院GP（グッド・プラクティス）は、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化をはかるため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する取り組みに対し、重点的な支援を行うことにより、大学院教育の高度化を推進することを目的とした文部科学省のプログラムです。

先端総合学術研究科は、従来型の大学院と異なり、プロジェクト研究への参加による実践的なカリキュラムの中で研究者を養成する五年一貫制の博士課程であり、「公共」「生命」「共生」「表象」の四つのテーマに沿った新しい研究領域を切り開く研究を推進しています。

「中国の大学管理運営幹部特別研修」研修生二五〇名を突破！

立命館学園では、二〇〇四年八月より、国際協力銀行が実施する円借款事業「中国内陸部人材育成事業」の一環として、中国の大学幹部に対する特別研修を実施してきました。中国では、急速な進学率の高まりと大学の拡大の中で大学運営の改革が迫られており、これまでに重慶市、甘粛省、吉林省、江西省、湖南省、新疆ウイグル自治区など各省から九回の研修団を受け入れ、研修生が延べ二五二名となりました。

研修は、派遣元のニーズに対応しながら、「日本の高等教育」「日本の大学運営」「日本の大学運営の事例研究」「フィールドワーク」等によって構成され、一〇週間から三週間のカリキュラムを組んで実施しています。

研修生からは研修内容に対する高い満足感が示されると同時に、日本の大学の中でも最も先進的に大学改革に取り組んでいる立命館学園に対する評価が高まっており、これまでに研修に参加した一一の大学および重慶市教育委員会と包括的な交流協定を締結するに至っています。

また、このような成果のもと、新たに環境技術をテーマとした「中国内陸部人材育成事業」特設研修コースの開発に取り組むこととなり、現在、国際協力銀行の委託を受けて提案型調査を実施しています。

JR二条駅前の新キャンパス名称「朱雀キャンパス」に決定

立命館学園は、学園本部と法科大学院等の専門職大学院を中心とした新たな教育・研究拠点を形成するため、京都市中心部のJR二条駅前に新しいキャンパスを確保し、現在、新校舎の建築工事を進めています。このたび、この新キャンパスの名称を「朱雀キャンパス」と決定しました。

新キャンパスは、平安時代の都・平安京の大内裏・大極殿（現千本丸太町付近）から朱雀門（現JR二条駅東付近）を通り、羅城門に向かう都の中心大路であった朱雀大路に位置しています。周囲には朱雀院等の遺構もあり、また明治以降の学区等の名称も「朱雀」が使われるなど、きわめて「朱雀」とゆかりが深い地域です。

なお、朱雀キャンパスに建設中の新校舎の名称については、学園創立者の名を冠した「中川会館」を継承します。

立命館大学大学院の入学金の取扱いを変更 本学出身者は入学金不要

二〇〇六年四月入学より、本学大学院における入学金の取扱いを変更することとし、本学出身者（本学を過去に卒業した方）からは、入学金（三〇万円）を徴収しないことになりました。これにより、校友の皆様が本学大学院に入学される場合の初年度学費は、変更前と比べ一四万円（専門職大学院は三〇万円）*減額されます。変更内容の詳細および学費については、立命館大学ホームページでご案内しています。

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/in/

＊入学金を徴収しない場合の学費は、教育充実費の新入生特別減免（二六万円）を適用しないため、変更前と比べ一四万円の減額となります（専門職大学院を除く）。

■大学院入試に関するお問い合せ先
大学院教学推進課（075）465-1111（代表）

衣笠

国際シンポジウム「グローバル化の中のアジア太平洋地域と法」開催

九月一〇日、立命館大学法科大学院主催による国際シンポジウムが開催された。これは、文部科学省選定の「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」のもとで一週間にわたり開講された夏季集中セミナー「京都セミナー『グローバル化時代の日本法』」の一環として行われたもので、一三カ国から八三名が参加した。

このシンポジウムは、日本の中小企業が海外進出するにあたり直面する法的なトラブルとその解決がテーマ。立命館大学の学生劇団「新演劇研究会（劇団月光斜）」による紛争事例を題材とした寸劇の上演で問題提起がなされた後、国際取引を専門とする実務家および研究者のパネリストが活発な議論を行い、解決策を探った。

インドネシア文化交流事業提携式典および記念コンサート開催

一一月一四日、以学館一号ホールにおいて、インドネシア文化交流事業提携式典および記念コンサートが開催され、インドネシアのハメンク・ブオノ一〇世ジョグジャカルタ特別区知事出席のもと、学生・一般市民らが参加した。

本式典は、京都府とジョグジャカルタ特別区との友好提携二〇周年を記念して同特別区から京都府へ寄贈された民族楽器ガムランが、京都府から学校法人立命館へ寄託されたことを受け、開催されたものである。幻想的なダンスに合わせて奏でられる珍しいガムランの音色に、来場者は熱心に聴きいっていた。

当面、寄託されたガムランは、同特別区知事の平和メッセージと共に、国際平和ミュージアムのロビーに展示する。

立命館孔子学院開講記念特別講演会「東方文化を広げ　調和社会を築こう」開催

一一月一七日、立命館孔子学院開講を記念して、王毅・中華人民共和国駐日特命全権大使による講演会「東方文化を広げ　調和社会を築こう」が開催され、多くの教職員、学生、留学生などが聴講した。

王大使は講演に先立って国際平和ミュージアムを見学し、立命館大学から名誉博士号を受けた。

講演会で王大使は、東アジアのみ

APUおよび附属校

立命館守山高等学校 開設企画教育シンポジウム開催

一〇月九日、二〇〇六年四月開設予定の立命館守山高等学校第一回学校開設企画として、「二一世紀の人材育成を語る」をテーマに教育シンポジウムが開催され、会場には約一五〇名の保護者・教育関係者らが訪れた。

第一部では、数学者で大道芸人のピーター・フランクル氏が、「考えることの大切さ」と題した記念講演を行った。氏は、外国と日本の教育比較を交えながら、コミュニケーション力の重要性と、数学を通じて身につける思考力・論理性の大切さを、具体例を示しながら述べた。

第二部では、「二一世紀の人材育成―科学技術教育のあり方」についてパネルディスカッションが行われた。

立命館守山高等学校が掲げている高大一貫教育の特徴（サイエンス教育・国際教育の重視、基礎学力と自立心の涵養）と関連付けた、示唆に富む意見発表があった。

確かな基礎学力に加えて、創造性、自律性、積極性が二一世紀の人材育成に不可欠であるとの各パネラーの共通した意見が、参加者の共感を得ていた。また、立命館守山高等学校への期待があらためて鮮明となった。

「世界高校生サミット」開催

一一月五日、六日の二日間にわたり、びわこ・くさつキャンパスにおいて世界高校生サミットが開かれ、世界一三カ国・地域から四〇〇名を超える生徒が参加した。立命館高等学校、立命館宇治高等学校、立命館慶祥高等学校の三校が、世界の高校生とともに世界の未来を考えることを目的に共催した。

「Rits Super Science Fair」部門では、「火星探査プロジェクト」などをテーマとしたプレゼンテーションならびに、「京都議定書」や「各国の理科教育」などについてのグループディスカッションが行われた。

「未来を考える集い」部門では、「平和・人権」と「環境・開発」のテーマ別に分科会を行った。世界規模の問題を、各地域・国家規模の問題に置き換え、より身近で実感の湧く内容として発表を行った。

また、立命館アジア太平洋大学のモンテ・カセム学長による「二一世

ならず世界に広まり、各国文化と共に発展してきた儒教の歴史を踏まえて、「儒教の真髄は和であり、現在もその教えは中国の調和の取れた社会、世界構築の姿勢に受け継がれている」と述べ、共に儒教の影響を受けてきた日中の友好、共存を訴えた。中国文学基礎講読の受講生、伊藤公亮さん（文2）は「授業で論語などを読んでいるが、その教えを現代に反映させたい」と語った。

学術公開特別シンポジウム「東アジア経済共同体構築の可能性」開催

一〇月一四日、二〇〇六年四月の経済学部国際経済学科・経営学部国際経営学科開設を記念して、特別シンポジウム「東アジア経済共同体構築の可能性」が開催された。

第一回「東アジアサミット」の開催を控え、日本と世界の経済ならびに国際ビジネスの今後の展開に大きな影響を与える「東アジア経済共同体」の可能性について、中核三国になるであろう日本・中国・韓国から招かれた四名の報告者がそれぞれ展望を語り、その後、パネルディスカッションに移った。アジア統合の経済的基盤や共同体の目的、自由貿易協定、生産・流通システムなどが話題にのぼり、多数の参加者がメモをとりながら熱心に聴講していた。

「学生ベンチャーコンテスト最終選考会」開催

一一月二一日、「立命館大学学生ベンチャーコンテスト最終選考会」が行われた。学生の持つ技術シーズやビジネスプランの発掘と、起業家人材の輩出を目的としたもので、昨年に続き二度目の開催。立命館大学、立命館アジア太平洋大学の学生から募集したビジネスプラン六三件のうち、書類審査を経た一〇組がプレゼンテーションを行った。

地域に密着したプランや情報配信を行うIT関連のプランなど、それぞれが個性に富んだ案を紹介。審査委員から鋭い質問がされる中、精一杯アピールした。最優秀賞には、「固体高分子型燃料電池用、耐劣化性白金触媒の製造と販売」を発表した新宅正行さん（理工学研究科M2）らのグループが選ばれた。

また、丸幸弘株式会社リバネス代表取締役による講演会「学生社長、ベンチャーを語る！」も開催された。

BKC

紀を支える君たちへ」と題した記念講演も行われた。

閉会式において高校生「世界宣言」を発表し、サミットは幕を閉じた。

「2005世界観光学生サミット」開催

立命館アジア太平洋大学（APU）において、一一月八日から「2005世界観光学生サミット」が開かれ、同月一三日に最終提言をまとめて終了した。

「ツーリズムの未来へ」をメインテーマに、「観光促進の原動力・持続可能な観光発展に不可欠な要素・現代の観光を取り巻く世界情勢」をキーワードにして、国内・海外合わせて二一カ国・地域、七八大学から集まった四六〇名を超える学生らが九つの分科会に分かれ、その道のエキスパートである研究者ともに議論を繰り広げた。あわせて、国連機関や旅行業界関係者による講演、各国・地域の学生が制作した観光宣伝映像および観光ツアープランのコンペティションなど、盛りだくさんの行事が行われた。一三日には小泉純一郎首相が出席し、参加者と交流した。

企画から実行までのすべてを学生実行委員が担い、学生のパワーの大きさを世界に示す機会となった。

大阪オフィス講座がスタート

九月七日、七年目を迎える「立命館大阪オフィス講座」が開講した。リカレント学習を志す社会人を対象に、身近な話題を解説する講座で、原則毎週水曜日に開かれ、全二五コマ。

初回は、立命館大学国際平和ミュージアム館長の安齋育郎教授が講師を務めた。「なぜ原子力科学者が平和学者となり、オカルト批判に取り組むのか？ 定年を前に来し方をふりかえる」とのテーマで足跡を語りつつ、「自分で問題を解決するための主体性を身につける場が大学教育である」と述べ、今後も平和学やオカルト問題などを通して、社会科学教育に従事する意思を表した。

本講座は二〇〇六年三月二三日、安齋教授と産業社会学部の木津川計教授との対談で締めくくられる予定。

各オフィスほか

SPORTS &

スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

アーチェリー部（男子）

第28回　関西学生アーチェリーフィールド選手権大会
（8月24日～25日　京都市北区白梅スポーツクラブ）
林和弘（産社4）　フィールド　優勝

アメリカンフットボール部

関西学生アメリカンフットボールリーグ
全勝優勝
甲子園ボウル出場決定

カヌー部

第41回　全日本学生カヌー選手権大会
（9月3日　石川県小松市木場潟）
男子総合　2位
女子総合　3位
男子カヤック部門　優勝
鈴木康大（経営2）K－1　1000m　優勝
樫尾智子（経済3）・原田かずさ（経営2）
WK－2　500m、5000m　優勝
真田匡朗（政策1）・相田芳明（理工1）
新人の部JK－2　500m　優勝
真田匡朗（政策1）
新人の部JK－1　500m　優勝

日本カヌーレーシング選手権大会
（10月16日　木場潟カヌー競技場）
樫尾智子（経済3）
女子カヤックシングル　200m　優勝

硬式野球部

関西学生野球六大学
秋季リーグ戦　3位

サッカー部

関西学生サッカー秋季リーグ
優勝
全日本サッカー選手権大会出場決定

射撃部

秋季全関西学生ライフル射撃競技大会
（9月7日～10日　能勢射撃場）
総合　優勝
川端さなえ（法1）
10mS40、10mS60　優勝
片山敏郎（産社2）
50m3×20　優勝

柔道部

関西学生体重別選手権大会
（9月3日～4日　岸和田市総合体育館）
六藤匠（産社3）男子66キロ級　優勝
藤原忍（文3）　女子63キロ級　優勝
梅野麻衣子（国関2）女子63キロ級　2位

重量挙部

全日本大学対抗女子選手権
（9月18日　日本大学湘南体育館）
角田祥子（法2）48キロ級　優勝
斎藤里香（産社4）75キロ級　優勝

第4回東アジア競技大会
（10月25日～11月4日　マカオ）
斎藤里香（産社4）69キロ級　5位

少林寺拳法部

少林寺拳法国際大会　in FUKUI
（10月9日～10日　サンドーム福井）
小原佑介（理工4）・岡田幹夫（法3）
発表の部：男子運用法　優秀賞（1位）

相撲部

第10回 全日本新相撲選手権大会（女子競技）
（9月18日　堺市大浜相撲場）
里山美紀（産社4）重量級　2位

第4回　世界新相撲選手権大会
（10月14日～16日　堺市大浜相撲場）
里山美紀（産社4）重量級　ベスト8

卓球部

平成17年度　関西学生卓球　秋季リーグ戦
1部リーグ
（9月1日～10日　尼崎市立体育館ほか）
男子　優勝
女子　優勝

軟式野球部

第40回　関西六大学学生軟式野球
秋季リーグ戦　1部リーグ
（9月1日～10月11日　伊丹スポーツセンターほか）
優勝

バドミントン部

西日本学生バドミントン選手権大会
（8月31日～9月6日　北九州市総合体育館）
女子団体戦　優勝（2年連続5回目）
男子団体戦　準優勝

第56回　全日本学生バドミントン選手権大会
（10月15日～20日　愛知県名古屋市）
女子団体戦　ベスト8
男子団体戦　ベスト16
後藤舞（産社3）女子シングルス　ベスト8

ボート部

第32回全日本大学選手権大会
（10月6日～9日　埼玉県戸田オリンピックボートコース）
村垣真章（理工4）・西本絢也（経済2）・
濱木一也（産社2）・金田大祐（経済2）
男子舵手無しクォドルプル　優勝

ホッケー部

第54回　全日本学生選手権
（10月7日～10日 山梨学院ホッケースタジアム）
【男子】優勝
【女子】優勝
最優秀選手　大杉侑希（産社2）

EVENTS

ヨット部（女子）

全日本女子ヨット選手権大会
（9月23日～24日　神奈川県葉山沖）
総合　優勝
児玉弥生（経営4）・関谷香苗（経済1）
スナイプ級　1位
矢野美晴（経営4）・中村茉耶（法3）
470級　3位

ラグビー部

関西大学リーグ戦
5位
全国大会出場

陸上競技部（男子）

第45回　実業団・学生対抗陸上競技大会
（10月2日　平塚市総合公園体育館）
400m　1位　内記正裕（経済3）
最優秀新人賞受賞

第4回　東アジア競技大会
（10月25日～11月4日　マカオ）
田子康宏（経営4）　男子1500m　2位）

第67回　関西学生対校駅伝競走大会
（11月19日　西浅井町役場―大津市膳所城跡公園）
優勝　4時間9分32秒
川上拓哉（経営1）・田子康宏（経営4）・
池田泰仁（経済4）・白坂拡（経済3）・
樋口達夫（理工3）・木澤創平（経営2）・
森田知行（経営3）・河原井司（経営1）

陸上競技部（女子）

第15回　関西学生対校女子駅伝大会
（10月8日　兵庫県しあわせの村）
優勝　1時間40分16秒
河岸南（経営2）・仲泊幸恵（経営1）・
樋口紀子（経済2）・立花三沙子（経営1）・
吉田亜耶（経済4）・丸毛静香（経済4）

自転車競技部

2005年度ツール・ド・北海道
（9月14日～19日　北海道）
辻善光（経済3）
8位

文化・芸術

CULTURE/ART

問い合わせ先：学生センター
075-465-8141

内燃機関研究会

第3回全日本学生フォーミュラ大会
（9月6日～9日　静岡県富士スピードウェイ内モビリタ）

この大会は、日本の自動車産業の発展に寄与するため、学生の「ものづくり育成の場」として2003年にスタートしたもので、プレゼンテーション能力などを競う静的競技と、燃費などを競う動的競技とがあり、その合計得点が総合成績となります。

同研究会は、45チームがエントリーする中、安全設計特別賞1位・プレゼンテーション賞3位・日本自動車工業会会長賞6位に入賞。また、総合成績では、13位となりました。

応援団吹奏楽部

第53回全日本吹奏楽コンクール　大学の部
（10月22日　大阪国際会議場）
銀賞

出場は全12校。立命館大学吹奏楽部は、課題曲「パクス・ロマーナ」と自由曲「舞踏詩『ラ・ヴァルス』」を演奏しました。2曲は異なる曲調。前者は澄んだ音で力強く、後者は流れるように優雅に演奏し、銀賞を受賞しました。

将棋研究会

関西秋期個人戦
（10月9日～30日　大阪市立大学）
鈴木雄貴（国関4）優勝
中野太輔（理工1）2位
禰保拓也（経済4）3位

関西秋期女流戦
（10月23日　大阪市立大学）
石内奈々絵（国関4）優勝
尾崎さやか（産社3）2位
赤井芽久美（政策2）3位
伊藤さやか（文3）3位

関西新人戦
（9月25日～10月2日　大阪市立大学）
須戸真樹（情報1）優勝

囲碁研究部

関西大学囲碁選手権
（11月3日・6日　アルプス江坂囲碁センター）
団体戦優勝

全日本学生囲碁十傑戦
（11月19日～20日）
武田淳（文1）　準優勝

探検部

日本洞窟学会第31回大会
（9月23日～25日、滋賀県・多賀町立博物館）

日本洞窟学会主催の大会に、本学学術公認団体の探検部が参加し、昨年実施した「第8次日中共同洞窟調査」の結果報告を講演会発表と展示企画で行いました。

メンネルコール

第60回関西合唱コンクール
（10月10日、池田市文化会館アゼリアホール）
大学部門B（33人以上）
金賞、学生指揮者賞受賞

第58回全日本合唱コンクール
（11月19日　新潟市芸術文化会館）
大学部門B　銅賞

編　集　室　か　ら

＊今回で3回目を迎えた「りつめい読者の会」。高橋さんという、京料理界の新進気鋭の魅力ある方のお話しに加えて、“ワイン会席”ということもあってか、参加者の45%が女性であり、32%を平成の若い卒業生が占めた。これまで、全国校友大会や各地の校友会には、どうしても男性や年配校友の参加が多く、事務局は女性や若手校友の参加者を増やすのに腐心するものだが、企画内容によっては参加増が望めるものである。

参加校友には、自己紹介を兼ねて一言ずつ語ってもらったが、金太郎飴でない個性豊かな立命人ばかりであり、結構、海外で活躍していた校友が多いことも発見した。また、社会人学生や、短大からの編入組の校友もおられて、なかなか、バラエティに富む“壮大な校友会組織”になっていることを再認識した次第であった。　（Y・T）

＊「ヒロミ郷とおない年で、50になりました」。学生時代は、勉学やクラブに励むこともなく、生涯の友をつくるでもなく、バイトと某劇団の練習に明け暮れていた。あれから30年近くの月日が流れているというのに、いまだ京都駅に降り立つと切ない気分がよぎる。大きく様変わりした衣笠キャンパスにあのころの面影はない。そう、大失恋のあの方との思い出もすっかり風化してしまった。2006年がスタートする。進化し続ける立命館。「小学校もできるん?」切り抜きだらけの朝刊を読みながら夫が尋ねる。つつましやかな毎日。私信に変えて、、。　（英）

＊本誌220号に登場して頂いたプロゴルファーの古市忠夫氏が、来日中のタイガーウッズと対面して感激されている姿を、秋にテレビで拝見した。氏を描いた平山譲著「還暦ルーキー」の映画化発表の場での事であったが、封切りが待遠しい。その時、古市氏に限らず、御登場頂いた方のその後の御活躍を、何かの形で紹介できれば良いなと思った。

ゴルフ繋がりでもう一つ。2005年の夏、ゴルフ部OB会から初めて日本プロゴルフ協会のプロテストの合格者が出た。大前和之プロ（26歳）だ。待望のプロゴルファーの誕生を祝うとともに今後の活躍に期待したい。　（G）

りつめい No.223／年4回発行
発行所／立命館大学校友会
発行人／山中　諄
編集人／尾﨑　敬則

〒603-8577　京都市北区等持院北町56-1
Tel. 075(465)8120・8124
Fax.075(465)8125
URL：http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/
E-mail：alumni@st.ritsumei.ac.jp

INFORMATION

● 校友会・グループ インフォメーション

※(職)は職場電話番号

校友会・グループ	日 時	会 場	問い合わせ先
95卒産社・人文コースMクラス同窓会	1/14(土)15：00	レストラン「カルム」	瀬良元信　06(6192)2320
大分県校友会総会	1/21(土)16：00	つるみ荘	佐藤昌彦　090(7448)6543
浜松会新年会	1/21(土)18：30	ホテルコンコルド浜松	舩越弘光(職)053(434)8114
北海道校友会総会	1/28(土)16：30	札幌パークホテル	中川　均(職)011(253)0123
松村勝弘先生を囲む会	2/18(土)14：00	キャンパスプラザ京都	村上吉胤(職)075(465)8172
愛知県校友会東三河支部総会	3/4　(土)18：30	豊橋グランドホテル	鈴木宣央(職)0532(54)5221

● 校友消息（判明分）

叙　勲　2005年秋分

◆瑞宝中綬章

西川泰治氏（'52理工）
近畿大学名誉教授

山鹿修蔵氏（'54理工）
元消防庁消防研究所長

菊岡平八郎氏（'58経済）
元関東管区警察局長

◆瑞宝小綬章

青山正夫氏（'48専法経）
元京都府企業局長

平本輝男氏（'56法）
元京都市消防司監

土居鹿男氏（'59法）
元兵庫県東京事務所長

中岡敏一氏（'59法）
元大阪高裁刑事首席書記官

赤井竹雄氏（'60法）
元滋賀県地労委事務局長

◆瑞宝双光章

北川仁朗氏（'53理工）
保護司

今奥弥志氏（'58文）
元公立中学校長

危険業務従事者叙勲　2005年秋分

◆瑞宝単光章

河村　孝氏（'51専法経）
警察功労

村上唯雄氏（'52法）
警察功労

田中将孝氏（'63経済）
消防功労

褒　章　2005年秋分

◆黄綬褒章

中川健次郎氏（'59理工）
中川電気代表取締役

堀口幸男氏（'59法）
近畿商工社長

川端治夫氏（'61文）
油正代表取締役

今泉康祐氏（'62法）
司法書士

山根和雄氏（'63法）
土地家屋調査士

就　任

野口　聖氏（'64経済）
岸和田市市長

米田通男氏（'70経営）
奈良市助役

福井重忠氏（'68法）
奈良市収入役

山内良信氏（'76理工）
(株)オリエントコーポレーション　取締役

訃　報

水田勝博氏（'51経済）
（本学名誉教授）
11月6日ご逝去。78歳。

真田　是氏
（本学名誉教授）
9月28日ご逝去。76歳。

松田長生氏
（本学名誉教授）
11月29日ご逝去。83歳。

2005年度各種国家試験合格者

- 司法試験 ……26名
- 公認会計士……*27名

（＊12月1日現在判明分）

- 国家公務員Ⅰ種 ……42名
- 外務省専門職員 ……3名
- 裁判所事務官Ⅰ種試験 ……1名
- 弁理士試験 ……9名

（在学生を含む）

BOOKS

校友会へご恵贈下さいました本の中から紹介させていただいております。

◆長尾治助氏（本学名誉教授）監修
大槻純生氏（'70法）、藤田昌徳氏（'74法）、國弘正樹氏（'80法）他著
『新版　判例貸金業規制法』
法律文化社＊3600円

◆北野　豊氏（'70文）著
『読んでわかる地理 上』933円
『読んでわかる地理 下』838円
山川出版社

◆原田　鋼氏（'79文）他著
『ある鉄道事故の構図－昭和15年安治川口事故の教訓は生かされたか－』
日本経済評論社＊3800円

◆丹野　忍氏（'96文）著
『永遠(とわ)の残照 丹野忍画集』
朝日ソノラマ＊2857円

価格は本体価格です。

あなたの最新の校友情報をお知らせください

お名前・ご住所・電話番号・勤務先等に変更が生じましたら、校友会事務局までご連絡下さい。当会では個人情報保護法に基づき、情報の慎重な取扱に努めてまいります。

●住所等変更通知専用フリーダイヤル

Tel. 0120−252094
Fax. 0120−252095

なお、郵便のご利用や、校友会ホームページの「登録内容変更入力フォーム」からデータをご送信いただく形でも変更連絡をお受けしています。

各種証明書発行依頼先について

卒業証明書・成績証明書などの発行依頼は、各学部事務室までお願いします。

【法・文・産業社会・国際関係・政策科学の各学部】
衣笠キャンパス　Tel. 075−465−1111（代）

【経済・経営・理工の各学部】
びわこ・くさつキャンパス　Tel. 077−566−1111（代）

「自由席」原稿募集

本誌「自由席」コーナー（今号は休載）へ原稿をお寄せ下さい。日常雑感・在学中の思い出・校友同士の交流にかかわる話題・近況報告など、テーマは自由です。原則600字程度。誌面の都合により、一部割愛等させていただく場合がございます。

お名前・卒年・学部・連絡先を明記の上、校友会事務局「りつめい」編集係へお送りください。ペンネームでの掲載も可能です。